

平成30年度原子力災害時における避難に伴う渋滞対策検討会 議事概要

○資料1に基づき、渋滞対策にかかるこれまでの取り組みを事務局から説明した。

(1) 各種シミュレーションの結果について

○資料2に基づき、住民アンケート調査の結果を事務局から説明した。

○資料3に基づき、渋滞シミュレーション等の結果をユーデック株式会社（県調査事業の受託業者）から説明した。

(2) 避難ルートマップの概要について

○資料4に基づき、避難ルートマップの概要をNTTアドバンステクノロジー株式会社（県調査事業の受託業者）から説明した。

【構成員からの主な意見、質疑応答】

- ・原子力防災はハード（屋内退避の建物、道路等）も大事だが、住民に計画をしっかりと理解してもらうというソフト面での対応があってこそ機能するもの。
- ・住民アンケートにおいて、行政から指示された避難ルートを使用すると回答しなかった住民をシミュレーションではどのように取り扱ったのか。
→シミュレーションは、全住民が計画上に位置付けられている避難ルートを使用することを前提に実施した。
- ・中間貯蔵施設に出入りする車両による混雑が予想されるが、渋滞シミュレーションには反映しているのか。
→原子力災害発生時は中間貯蔵施設への搬入作業が中止されることを前提にシミュレーションを実施した。
- ・避難時間推計において、一斉避難で38時間という計算結果は一住民の平均避難時間ということか。
→避難指示があつてから対象住民の9割が重点区域の外に出るまでに要する時間。
- ・今後数年の間に道路の整備が進む予定だが、避難ルートマップへの反映はどのように考えているか。
→道路そのものの更新時期はまだ具体的に決めていない。コンビニエンスストアの位置や狭隘部分などの道路情報は少なくとも1年に1回は更新する予定である。

(3) その他

- ・今後は、シミュレーションによって明らかとなった渋滞箇所について、どのような対応ができるのか、引き続き関係機関と対応を協議していくことを事務局から説明した。